（別添3）　　平成　27　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4470201072		
法人名	社会福祉法人　豊心会		
事業所名	和幸苑グループホーム望み		
所在地	大分県別府市亀川東町20-14		
自己評価作成日	平成27年12月1日	評価結果市町村受理日	平成28年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町２丁目１番４１号
訪問調査日	平成28年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気を大切にしています。食事は3食手作りで提供し糖尿病や高血圧などの方がいる中で、季節の野菜や季節の行事を大切にしたり、食べる楽しみを持てれるようにしています。帯状や、ご本人の状態に合わせ代替え食や、ミキサー食なども柔軟に対応しています。また、自治会に入会しており、法人の行事なども一緒に参加できるよう努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・地域との繋がりを重視する理念を持ち、自治会や地域住民との交流に力を入れている。
・3食とも事業所内で作られており、利用者もできる事を手伝っている。利用者の食べたい物の希望を聞いてメニューに反映している。
・職員と利用者の良好な関係が出来ており、おだやかな暮らしが送られている。
・職員間の信頼関係は厚く、意見が出しやすく業務の改善につなげている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもと、職員が意識をもち地域の方々との関係性を大切にするようにしている	地域に開かれた事業所を目指すなど5項目を理念に挙げ、玄関や事務所に掲げ、日頃より確認をしている。申し送りや会議の時に再確認仕合い、実践に繋げている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に参加したり、防災訓練も合同で行っている。また、2か月に1度地域の美容師さんに訪問していただき、散髪している	自治会との交流が盛んである。地区の防災訓練に参加したり、地域からは美容師による散髪が行われている。津波注意報が出た時自治会長が安否確認に来てくれる。等、日常的に地域との双方向のつきあいが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の方には、防災訓練の際にはボランティアをお願いし、認知症に対しての理解につながるようにしている		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、利用者・自治会長・自治委員・市役所・地域包括支援センター職員とともに運営推進会議を開催し、サービスの向上や情報交換の場にしている	2か月に1度の運営推進会議に利用者や自治会の人が参加しており、ここで利用者と地域の人との交流が持たれている。自治会と一緒の連絡網が作られている。地区の防災士として施設職員が登録している。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	別府市役所高齢者福祉課の担当職員が推進会議に参加し、サービス向上や、情報交換とともに意見もいただいている	運営推進会議に市の担当職員が毎回出席するようになり、研修など各種情報をもらっている。事故報告をしたり、その後の経過報告をするなど市との連携が取れている。家族とのつどいに市からも出席して頂いている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で意識し、身体拘束は行っていない	身体拘束をしないケアを徹底している。外からの不審者侵入に備え夜間のみ玄関を施錠している。昼間玄関を出て行く利用者にはさりげない声掛けや見守りなどで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	別府市主催の研修会に参加し、勉強している		

事業者名：和幸苑グループホーム望み

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者もおり、必要な時は、支援出来るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、説明を行い家族などの不安や疑問に点にこたえられるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1度の運営推進会議の内容などは、面会時にお伝えしている。また、面会の際には状況報告や家族の要望なども聞くようにしている	面会時に家族から意見や要望を聞いている。牛乳が飲めない利用者には要望によりヨーグルトに変えたり、筋力が落ちた時は室内を余分に歩いて訓練をしている等家族の意見が反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時に、グループホーム会議を開催し、職員の意見を聞ける機会を設けている	申し送り時や休憩のときに職員より意見や要望を聞いている。夜勤体制や食事作りなどについて気づきやアイデアを出し合って業務の改善に役立てている。必要あれば会議や法人全体の会議を開き意見や提案を出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心のある職員に対して、資格取得のための推奨を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格試験の為の研修や、試験が受けられるよう配慮している。また、グループホーム協議会の研修会参加の推奨を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1度グループホーム協議会の研修を通じて、他の事業所や多職種との交流が図れるようになっている		

事業者名：和幸苑グループホーム望み

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面接で、本人との話し合いや馴染の関係に慣れる機会もち、家族だけでなく本人からも話が聞けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時より、不安や求めているものをくみ取れるよう関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスかどうか見極めたうえで、状況によって地域包括支援センターなども紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いが協同しながら穏やかに生活できるよう場面作りや関わりを持っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を細かく伝え、家族の思いや意向なども大切にし、本人を支えていくための協力関係が築けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外でも、馴染の方の面会やかかわりを大切にしている。散歩やドライブで家の近くを通ったりすることもある	地域の人が運営推進会議終了後に知り合いの利用者に会いに行っている。散歩では自宅に通ったり、馴染みの場所に行ったりして関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や、気分などを注意し観察し利用者同士の関係がうまくいくように支援している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院になりサービスが終了した利用者様の面会に行くこともある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、把握に努めているが希望の対応が困難な場合は、出来るだけ本人本位に添えるよう検討している	日々利用者と接している中で思いの把握に努めている。アセスメントを参考に本人や家族に希望を聞いて実現できるよう努めている。誕生日に何が食べたいかを聞いたり、演芸の好きな人には慰問を受け入れたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご自宅を訪問したり、本人家族から聞き取るようにしている。また、折に触れ本人や家族からどのような生活をしていたか聞くように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや、出来ること、わかる事の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを含め、職員が意見交換をして本人が自分らしく暮らせるよう介護計画に生かしている	業務日誌に気づきなどを書き思いや意向を確認し、プランに活かされている。定期的なモニタリングが行われており、利用者が望むことは何かを職員みんなで考え計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や、水分摂取、排泄、身体状況等ありのもも記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎など必要な支援を柔軟に行っている		

事業者名：和幸苑グループホーム望み

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園の園児や、中学生の職場体験。福祉学生のボランティアの受け入れも行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医に受診している。家族の意向により、職員も付き添い連携を図ることも多い	これまでのかかりつけ医との繋がりを継続してきたが、医師が往診してくれるのでこの往診医に変更しつつある。受診に出掛ける場合は家族とは病院で待ち合わせ、職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定の記録も毎日かかりつけ医に報告し、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決定したときは、病院Drや家族と相談し出来る限り早期退院が出来るよう情報提供し、認知症状が進まないよう面会に行くようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時説明を行うと共に、面会時は状況を伝えながら重度化や終末期の話をしている	重度化した場合はどうするか契約時に同意書をもらっている。状態に応じてその都度確認をして把握している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時はマニュアルを作成し、対応できるようにしている。また、かかりつけ医にすく相談出来るような関係を築いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、避難体制の見直しを行っている。自治会と合同で津波避難訓練も行っている	事業所独自に年2回、地区の防災訓練に年1,2回参加しており、今年度中に夜間想定訓練を計画している。自治会長の応援により事業所前のマンションを避難場所として契約している。	

事業者名：和幸苑グループホーム望み

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを第一に考え、自己決定しやすい声掛けや対応に努めている	利用者一人ひとりの意思を尊重してケアにあたっている。トイレ使用中のドアは閉める、入室する時はノックする。一緒に服を確認したり本人に洗濯物をたたんで独自に管理してもらうなど、その人の人格を大切にした対応である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら「～したい。」とおっしゃらない利用者には、表情や、希望が聞けるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者によって出来ること、出来ないこともある為個々のペースに合わせて過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を伸ばしている方の、整髪の手伝い等その人らしく出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おはぎや餃子などを一緒に作ったりすることもある。下準備の野菜の皮むきや、ケーキの粉振るいなども一緒に行っている	開設当時より食事作りは事業所内で手作りである。利用者と一緒に買い物、下ごしらえや後片付けなどを行う。偏らないよう献立に工夫をしているが、食べたい物があればメニューを変更したりして希望を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来るだけ病状や状態に合わせて食事を提供に努めている。水分摂取は、お茶だけでなく、コーヒーやカルピス等も提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けを行い、状態によっては介助も行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表をつけ、定期的な誘導介助失禁の確認交換を行っている。	排泄のチェック表を見ながら本人のリズムに沿ってさりげない声掛けなどしてトイレ誘導を行っている。日中ほとんどの利用者は自力でトイレに行ける。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行訓練など体を動かせるように取り組んでいる。食事も食物繊維摂取や水分補給も積極的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状況によって順番を入れ替えたりしている。湯加減や入浴時間は体調に合わせ出来るだけ希望に添うようにしている	一日おきに入浴している。シャワー浴や時間など個別に対応しており、長風呂など利用者それぞれの習慣を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動を促し生活リズムが整うように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や主治医からの指示書をいつでも確認できるよう整理し、職員が把握・確認出来るようにしている。服薬は利用者に合わせて介助・見守りを確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力が発揮できるよう、出来ることの手伝いや役割を持っていただきお願いしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、日光浴、ドライブ等天候や本人の体調など考慮して支援している	日出町や田ノ浦ビーチ、ロープウェイなどへドライブに出かける。地区の花火大会の時サイダーや枝豆などでお祭りの雰囲気づくりをして花火を楽しんでいる。日常的に地域を散歩している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で管理しているが、買い物に一緒に行けた際は、本人に手渡しし払っていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話に出れるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はフロアで過ごされる方が多く、台所の料理の音やにおいが感じられるようになっている。	天井は高く明るく広々とした開放的な共用空間である。ソファがありゆったりとくつろげるようになっている。利用者の意見を取り入れたメニューでみんなで食事作りをする家にいる様な雰囲気が感じられる。トイレも広々として車いすのままは入れ使い易い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはテーブルセットをおいているが、ソファーでそれぞれが気に入った場所に座って過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染の物を持ってきていただいたりしている。利用者様によって人形なども子供のように大事にしている為支援している	これまで使い慣れた家具や好みの物を部屋に置き居心地良く過ごせるようにしている。色々物を置くのが好きな人、嫌いな人など利用者の希望に沿って落ち着いたその人好みの部屋づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわかるよう、名前を大きく貼ったり、トイレや浴室なども目印をしている。		